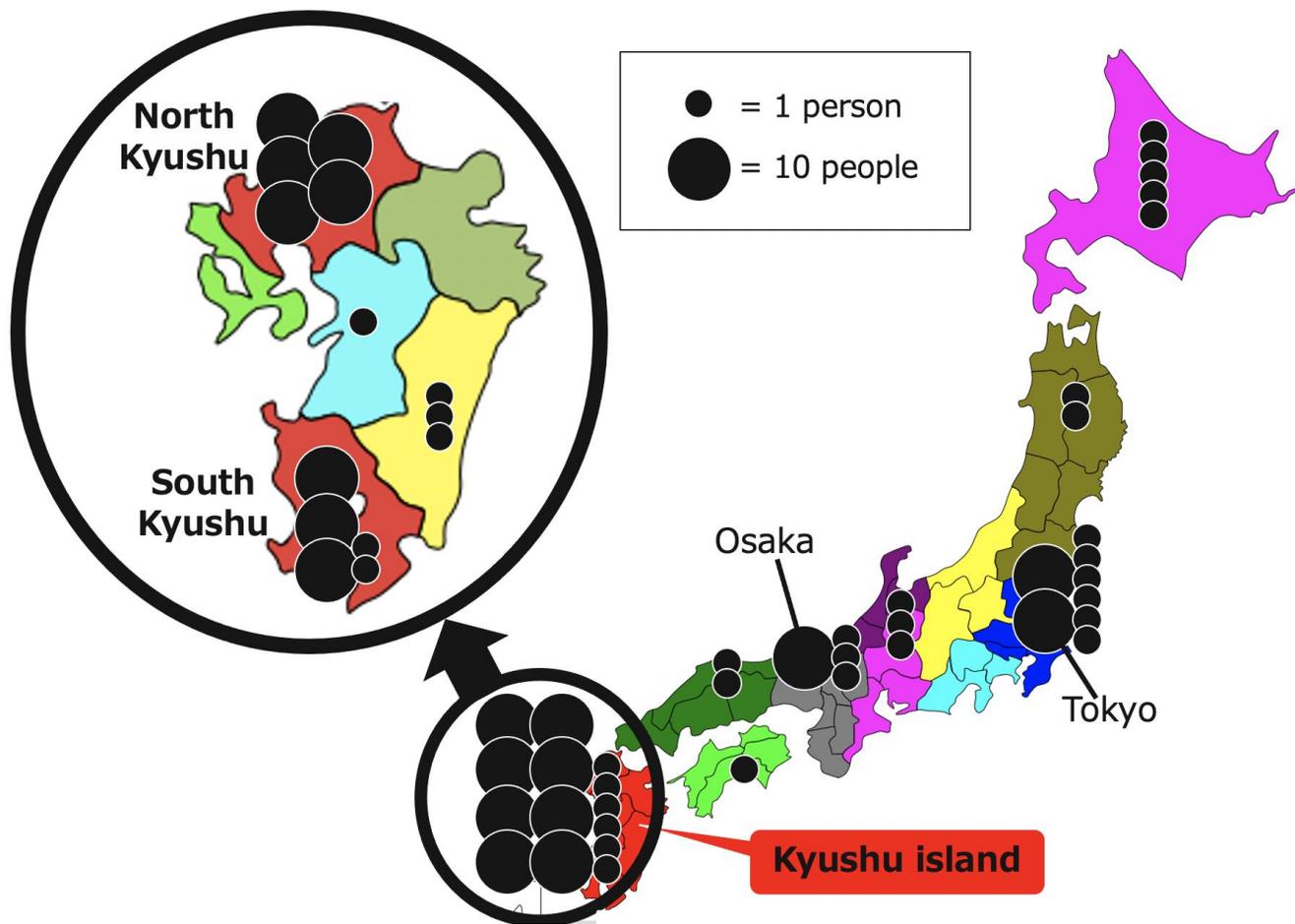


本邦におけるGSS-P102Lの臨床疫学的検討 (続報)

研究分担者：国際医療福祉大学 村井弘之



解 説

1. GSS-P102Lが、計138人集積され、これはこれまでで最大の解析数である。
2. 平均発症年齢は55.3歳、家族歴を有する割合は90.6%にのぼった。
3. 初発症状は75.6%が小脳失調であり、認知症の14.6%を大きく上回った。
4. MRIの高信号を有する群、脳波のPSDを有する群は有しない群と比較して死亡までの期間が有意に短かった。